

「リゼットのみどりのくつした」

よく はれた あるひ、
リゼットは さんぽに でかけました。

すこし すすんだ ところで、リゼットは くつしたを を見つけました。
みどりの かわいらしい くつしたです。

「ラッキー！」リゼットは ひとりごとを いいました。
「こんなに すてきな くつした、めったに みつからないよ！」

リゼットは くつしたを はいて、ルンルンと すすんでいきます。

それから しばらくして、リゼットは トムキヤットと ティムキヤットに
ばったり あいました。
ねこの きょうだいは、リゼットを からかうのが だいすきです。

「みて、これ みつけたの！」リゼットが とくいげに いいます。

「みろよ、くつただって！ リゼットは あほうどりなのかい？ もうかた
っぽは どこなのさ？ くつしたは にまいで ひとくみだって しらない
の？」

「ああ、そっか。」リゼットは いいました。
「にまいで ひとくみだ。もうかたほうを さがさなくちゃ。」

リゼットは いちばん たかい きに のぼりました。そこからなら、まわり
が ぜんぶ みえるのです。

でも ざんねんな ことに、いくら おおきく めを みひらいても、くつしたの かげさえ みえません。

「わかった！」リゼットは いいました。
「きっと うみに おちちゃったんだ。」

リゼットは きから おりて うみべへ いそぎます。

リゼットは つめたい みずの なかに かおを つっこんでみました。
すると、そこを いっぴきの さかなが とおりかかりました。もしかしたら、さがしものを てつだってくれるかもしれません。

「こんにちは、さかなさん。この あたりで くつしたを みかけなかった？」

「いいや。」さかなは いいます。「でも みて、おおきな コーヒーポットとちいさな くまでを みつけたんだ。こんなに すごいものが いろいろとおちてくるんだよ！」

「それは すごいね。」リゼットは ためいきを つきました。「だけど、わたしは くつしたを さがしてるの。」

がっくりとした リゼットは、おうちへ もどっていきます。

「あら どうしたの？ そんなに おちこんじゃって。」おかあさんが ききました。

「くつしたを みつけたの。」リゼットは こたえました。「でも かたほうだけじゃ ダメなの。くつしたは にまい なくちゃ。」

「そうよ。」おかあさんは いいます。「くつしたは にまいで ひとくみ。くつと おんなじね。ほら かしてみなさい、あらってあげるわ。じめんに おちていた くつしたなんて はいちゃ ダメよ。きたないでしょう？」

リゼットは すわって くつしたが かわくのを まちました。

「あれ、きみの ぼうし？」

リゼットは ふりむきました。おともだちの バートです。

「ぼうしじゃないよ。」リゼットは バートに いいました。「くつしただよ。」

「へえ！」バートはいいます。「だけど ぼく、ずっと まえから あんな ぼうしが ほしかったんだ。かぶってみても いい？」

「いいよ、よかったら。」

リゼットは わらいだしてしまいました。「わたしの くつした、にあってるね！」

「みてのとおり、いい ぼうしに なるでしょ？」バートは いいます。

「ほんとね。ふたつ もってたら、ひとつ あげるのに。」リゼットは いいました。

トムキャットと ティムキャットが、ひよこひよこ こっそりと おうちを まわりこんで やってきました。

「ピンポン！」ティムキャットが よびかけます。「こんなもの みつけたんだ、リゼット……もうかたっぽの くつした！」

「どこに あったの？」リゼットが ききます。

ところが、ねこの きょうだいは こたえてくれません。

「ほーら、とりに こいよー！」そう さげんで、ふたりは ひよいひよいとにげていきます。

リゼットと バートは あとを おって はしりだしました。

「はあ、はあ！ あいつら、せは ちいさくても あしは はやいな。」トムキヤットが いいました。

「でも、これで もう くつしたには たどりつけないだろうね。」ティムキヤットが いいます。「ポチャン！」

リゼットと バートが いきを きらして やってきました。

「さあ、くつしたを ちょうだいよ。」リゼットが いいます。

「くつした？ なんの ことだい？ くつしたなんて もう もってないよ、ほら。とんでいっちゃったのさ。」

バートが リゼットの そでを ひっぱります。

「もう いいよ。あいつら いじわるだし、そのうえ うそつき。くつしたは とべなんか しないよ。」

「こんなの ひどいよ。」リゼットは いいました。

「これじゃあ ぼうしは ずっと ひとつだけ……でも もうちょっとだけ かぶってても いいよ、バートが かぶりたかったら。おうちに つくまで、ね。」

「やさしいね。」バートは とても ちいさな こえで いいました。

ふたりが おうちに つくと、びっくりなことが まっていました。リゼットの おかあさんが あたらしい くつしたを あんでくれていたのです！ リ

ゼットが みつけた ものと まったく おなじ、みどりの くつしたです。

リゼットは とびはねて よろこんで、それから おかあさんを ギュッとしました。

「バートみたいに、あたまに かぶるのかしら？」おかあさんが ききました。

「もちろん。」リゼットの めは キラキラ かがやいています。「これで おそろいの ぼうしね！」

バートは うれしくて おどりだしてしまいました。

おやすみの じかんです。バートは もう おうちへ かえっていきました。

リゼットは ぼうしを かぶって ねむることにしました。

そして、おともだちの ことを かんがえてみました。バートも きっと ぼうしを かぶって ねむっているのでしょう。

そうに ちがいない、と、リゼットは おもいました。

でも、いちばん しあわせな よるを すごしているのは あの さかなです。

みつけた ものに かこまれて、とっても うれしそうです。

ちいさな くまでと おおきな コーヒーポット、それに……

いまでは あたたかい みどりの おふとんも あるのです。

(裏表紙) こんなに すてきな くつした、めったに みつからないよ！